

あ と が き

今年の夏は、気象庁が観測を始めて以来、一番暑い夏だったそうである。我が家でもビールの消費量は増え、エアコンもフル稼働していた。日本経済にとって良い刺激に成ったことを思えば猛暑も我慢できよう。思い起こせば、2年前の夏はパリで生活していた。フランス人は7月14日の革命記念日を過ぎると一斉にバカンスに出かける。1カ月程度の夏期休暇は平気で要求するし、上司もそれを認める。7月、8月に会議は全くセットされない。私の目からは、フランス人が本当に人生を謳歌しているように見えた。一方、日本人はどうだろうか。

3年間の OECD/NEA 勤務の中で、日本の核データに関する活動を知る唯一の情報源が年3回送られてくる「核データニュース」であった。日本にいるときは、自分の興味のある記事しか読まなかったが、パリにいるときは初めからあとがきまで読んだのを覚えている。その中で、高エネルギー核データや JENDL-3 の改訂の活動を知った。JENDL-3 の改訂は、今年6月に終了し JENDL-3.2 として公開されたのは周知のことである。今後、JENDL-3.2 がいろいろの分野で使われて、その使用経験をフィードバックして頂ければと思います。本誌も、核データの評価者と利用者間のコミュニケーションを図るための討論の場として、積極的に御利用下さい。

(柴田)

核データニュース編集委員会

中川 庸雄(委員長、原研)、浅見 哲夫(データ工学)、井頭 政之(東工大)、
喜多尾 憲助(データ工学)、柴田 恵一(原研)、高野 秀機(原研)、
吉田 正(東芝)

